

## エッセイを書いてみませんか

山田義範（33年経卒）

皆さんエッセイを書いてみませんか？ 自分が過去に得た貴重な体験、心の底に消えずに残る感興などを綴り、友人・知人、あるいは子・孫に伝えたいと思いませんか？

エッセイと言っても範囲は広いです。情感のこもった随筆、新しい驚きを見つけた紀行文、何気ない日々の生活記録、社会時評（ただし政治、思想、宗教は除きますが）、感銘を受けた図書の紹介・読後感、切れ味の良いコラム記事、などなどです。エッセイを書いているうちに事実を膨らませた、あるいは変形したフィクションを加えた、掌編小説（400字詰め原稿用紙15枚程度）、短編小説（同30枚程度）等も書いてみたくなります。

私は旧富士銀行（現みずほ銀行）退職後、味わいのある文章を書きたくなり、日本随筆家協会（現在解散）の会員となり、その編集長から指導を受けました。その後高遠書房の設立に加わり、季刊雑誌「文章歩道」の編集に携わり今日に至っています。その間に得た様々な技法をお伝えしたいと思うのです。そこで、賛同者が多ければ「エッセイを書こう」の会を立ち上げてみたいと考えています。

活動は月1回、持ち寄った作品をみなで読み合わせし、合評を行い実技を磨いてゆきます。但し執筆者名は伏せての読み合わせ会ですからご安心ください。また、当初の3か月は、書き方の基本の受講です。その間に一編書いていただくわけです。3か月に1度の習作（作品提出）ですからそう負担にはならないでしょう。できれば年に1度、作品を纏めて冊子に仕上げたいです。会員のパートナーも歓迎です。

いまや世の中は素人の時代。さあ皆さん、日曜作家になってみませんか。  
関心お持ちの方は、下記「分科会支援チーム」までお問合せください。

問い合わせ先：「分科会支援チーム」 田熊利彰

e-mail: [takuma.toshi.47@jcom.home.ne.jp](mailto:takuma.toshi.47@jcom.home.ne.jp)

携帯番号：090-7238-0419